

東京 IPO 特別コラム

2017年12月19日 Vol.105

後半戦突入の12月IPO相場はやや過熱気味?!

師走相場に彩りを添える12月のIPO相場も後半戦に突入。昨日は一気に4銘柄（ジーニー、ナレッジスイート、すららネット、歯愛メディカル）が上場してきました。このうちのナレッジスイート（3999・マザーズ・公開価格2000円）と、すららネット（3998・マザーズ・同2040円）の2銘柄は初値がつかず本日に持ち越しとなったほかジーニー（6562・マザーズ・同1350円）は公開価格より98%上で値が付くなど活況の様子が伺えます。

市場は二極化しており、初値やその後の株価が公開価格を下回る銘柄がある一方で初値が上場初日にはつかずに2日目の上場となる銘柄も見られます。投資家の成長期待が高いマザーズ銘柄には特に関心が高い一方で、東証1部上場のアルヒ（7198）が公開価格割れして初値がつかずなどすべてのIPO銘柄が人気化している訳ではない点に注意が必要です。また、マザーズ上場銘柄でもHANATOUR（6561）のように公開価格の10%上で初値をつけ、その後株価が下落する事例も見られます。また、公開価格の2倍以上に人気化した銘柄はその後の株価が継続して上昇するとは限らず、この後の展開には注意が必要となります。好需給銘柄への関心は高いため収益性を無視した格好での株価形成が見られますので、いずれ咎めが出るのではないかと危惧されます。反対に穏健なスタートとなった銘柄の中にはむしろ投資チャンスが待っているのかも知れません。

今年最大のIPOとなったSGホールディングス（9143）も初値が1900円と公開価格を17%余り上回るなど順調な消化が続いていると言っても良いでしょう。今月のIPOはマザーズ銘柄が9銘柄と数としては多いのですが、売買へのインパクトとしては東証1部上場の6銘柄が大きいと考えられます。個人投資家はマザーズやJASDAQ銘柄に資金を投じがちですので東証1部銘柄への関心が薄く、その分株価は低水準でスタートするということになります。初値が安いとその後も人气が離散しがちですが、将来性を見いだせれば改めて評価されるタイミングが到来することになります。

IPOラッシュの中、株式を公開した企業は自社の事業内容についてより正確に投資家に説明していく必要があります。積極的なIRによって投資家の皆さんは自らの裁量でリスクマネーを投じる参考資料や動機付けが得られることになります。なかなかいきなりIPOしたばかりの段階では一般の個人投資家にまで正確な企業内容が伝わることは困難ですが、IPO後3か月から半年の間での各種メディア等を通じたアピールを行うことがIPO後の調整局面での再評価につながるようになります。

後半戦に突入した12月のIPO相場も残りわずか。26日に東証2部にIPO予定の中古自動車輸出関連のオプティマスグループ（9268）で最後となります。90銘柄を数える2017年IPOもこの銘柄で有終の美を飾れますか、皆様とともに見守りたいと思います。

（東京IPOコラムニスト 松尾範久）